

前奏 黙想	祈 禱
讃美歌 31 わがみかみよ	讃美歌 369 はたらきびとに
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 申命記 24:14~15	黙 禱
マタイによる福音書 20:1~12	主の祈り 564
讃美歌 310 しずけきいのりの	頌 栄 544 あまつみたみも
説 教 『天の国と労働』	祝 禱 後 奏

葡萄の収穫は慌ただしい。種まきで時期を段階的にずらせる畑作物と違って、一気に収穫しなければダメになる。収穫期にはどの農場でも労働者は引く手あまたで、農場の主人は寄場へ「夜明け前に出かけて行った(マタイ 20:1)」。一日働いて1デナリオン(1日当り)の契約で屈強な男たちが農場へ送られた(20:2)。それから、9時にも寄場へ行って健康な労働者を補充した(20:3~4)。それでもまだ足りないのか、12時と3時にも寄場へ行った(20:5)。最盛期で労働者が引く手あまたとはいえ、この時刻に居残っている者は力の劣るおっちゃんばかり、だが採用。主人は5時にも寄場へ行くと、仕事にあぶれた体の弱い者たちがいて、「なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか(20:6)」と尋ねた。彼らは「だれも雇ってくれないのです(20:7)」と答える。するとどうだろう。主人はそんな彼らまで雇った(20:7)。

夕方になって賃金を受け取る時、5時に来たヨボヨボ労働者たちが最初に1デナリオンもらう(20:9)。朝から働いた元気な男たちは、当然もっともらえると期待したが契約通り1デナリオンだった(20:10)。12時間バリバリ働いても、1時間ヨボヨボ働いても、同賃金だなんて理不尽だと元気男たちは憤慨する(20:12)。イエスの譬えを聞いた弟子たちも、聖書を読む私たちも、弱者への配慮は大切だが、こりゃやりすぎじゃないか、と思う。だが「天の国はこのようにたとえられる(20:1)」とイエスは語る。

それでは、この偏りに見える分配の何が「天の国」の比喩なのか。つらつら思い巡らしてみた。屈強な男たちは「まる一日、暑い中を辛抱して働いた(20:12)」と訴える。ただ暑い中でもバテない体力は誇らしい。一方ヨボヨボ労働者はどんな心境だったか。皆は仕事にありついているが俺には今日も仕事がない、家では子供が腹を空かせている。これは惨めさと、生活苦の両方から相当きつい。半日働いたおっちゃんはどうか。岡林信康が唄った『山谷ブルース』くらいの感じか。「きょうの仕事はつらかった、あとは焼酎をあおるだけ」。辛いことは労働それ自体ではなく、孤独と閉塞感だと分る唄。

「同胞であれ、あなたの国であなたの町に寄留している者であれ、貧しく乏しい雇人を搾取してはならない(申命 24:14)」。属性に係わりなく弱い立場の者を守る戒め。「賃金はその日のうちに、日没前に支払わねばならない。彼は貧しく、その賃金を当てにしているからである(24:15)」。雇い主は強者で支払いをごまかしやすいから、律法で戒められた。私にも十代のバイトでそんな心当たりがある。弱者に手厚い律法だが、あの農園主人はいくらなんでも、実利を無視していき過ぎではないのか。

「天の国は次のようにたとえられる(マタイ 20:1)」。イエスは、労働と報酬を譬えにしながら、その仕組みを超えた天の国を指し示す。働く気満々の元気な者に、天の国はどう映るだろうか。頑張っても収入にならなければ意欲が萎えるか。それとも、たとえ挫折しても生きていける、という大らかさになるか。私たちは経済の歯車として「働く」のではない。授かっている賜物が現れるために働くのだ。

あの日の午後、農園主なる神が寄場に來たのは、労働力を求めてではない。仕事にあぶれて惨めさに陥った者を訪ねたのだ。早朝來た時からあぶれそうな者たちを気に留めていた。そんな神の御心が充満する場、それが天国。元気一杯の時は見えないが、誰の心の底にもある弱さでそれは感じられる。

力があるなら力比べをしたらいい 子供の身体には柔軟力があり 若者には体力があり 壮年期には知力の統合 そして老人力を身につける 老人力の力比べはユーモラスで天国のおもかげがある  
本日礼拝後は役員会。今日から「カレーの日」再開、どなたでも遠慮なく食べていって下さい。無料です。7/8(土)1:30~3:00 聖書研究会。牧師の動き:7/3 分区牧師会(甲府教会)、7/6 刑務所教誨。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。